

山を下り、私達人間を傷つけるものとなりま  
 は雨で山の上が崩れると土砂とともに一気に  
 されてしまっています。育ち過ぎた巨大な木  
 成長し、必要な手入れがされないままに放置  
 した。しかしながら、現在はそれらの木々が  
 となくなると人間の生活を守るものになるはず  
 います。これらの木々は大きく育ち、森や林  
 五年度には約十三億本の苗木が生産されて  
 いました。林野庁の記録によると、昭和三十  
 建築資材を得るために植林活動を精力的に行  
 今、戦後七十九年。日本は太平洋戦争直後  
 す。その中の一つが土砂災害です。  
 につながらるといふ新たな問題も起こっていま  
 す。そしてこれらの問題がさらに大きな災害  
 森林破壊など、深刻な問題が様々上げられま  
 浮かべるでしょう。地球温暖化、海面上昇  
 「環境問題」と聞いて私たちが何を思い  
 三年 岩沢 大樹  
 宮城教育大学附属中学校

思えませんが。今回は偶然被害を受けなかった  
 り離れた場所だからとい、他人事だとは  
 に、私は怖いと感じます。自分の住む地域が  
 ました。このようなニユースを目にするたび  
 規模な土砂崩れが発生し、三人の命が失われ  
 避難指示です。また、愛知県の中北部でも大  
 な場所から全員離れるようにという大規模な  
 戒レベル四の避難指示が出されました。危険  
 こ、ています。例えば七月には鹿児島県で警  
 人間を守、てはくれないのです。  
 このような土砂災害の被害は日本全国で起  
 その森や林を人間が守らなければ、森林も林も  
 きないものです。森林や林はあります。しかし  
 を巻きこみながら流れていく様子は言葉にで  
 は抑えきれません。崩れた土砂が周辺の集落  
 崩れ出します。少ない木の根ではそれらの土  
 こみ過ぎた地面はやがて耐え切れなくなり、  
 集中豪雨などで大量の雨が降れば、水がしみ  
 の根が山の土を抱えきれなくな、ています。  
 す。また、逆に木々が足りないと、ころでは木

だけで明日は我が身がもし取れないのです。実  
 際、八月に台風七号の影響で千葉県に避難指  
 示が出されたとき、私は千葉県の祖父母の家  
 にいました。まさか旅先で土砂災害の危険に  
 さらされるなんてという驚き、家族全員無事  
 でいられるのかという不安、仙台に帰れるの  
 かという恐怖が私の中で渦巻きました。自分  
 が被害の当時者になった時、こんなにも日本  
 の各地で起こっているからこそ、土砂災害に  
 関係のない人などいないのだとあらためて思  
 いました。  
 私がこのような思いを抱いていた時、ある  
 言葉に出会いました。それは中学校の総合学  
 習で、長野にある苗木育成の企業を訪れた時  
 のことです。苗木や植林について教わって  
 いる時、一人の職員の方がこうおっしゃいまし  
 ました。  
 「祖父の代で植え、父の代で育て、孫の代  
 で伐る。それが木を育てるというのだ。」  
 この言葉を聞いたとき、私の中でこれまで

の人々が受け継いできた思いが、つながった  
 気がしました。おじいちゃん、お父さん、息  
 子と三世代に渡ってバトンパスをし、守り育  
 ってきた木々。その木々が私たちを守ってく  
 れるのです。林野庁の記録にあった戦争に植  
 林された木々は今がまさに伐採時期であり、  
 っ孫の代りにあたります。前の世代が植え  
 育ててくれた木々をきちんとして守ること  
 が、土  
 砂災害を防ぎ私たちを守ることにつながるの  
 ではないでしょうか。誰にでも関わる災害だ  
 からこそ土砂災害におびえるだけでなく、災  
 害を起さず防ぐためにできることがあるの  
 ではないでしょうか。  
 もちろん林業を充実させ、林業に関する仕  
 事に多くの人が就くことも土砂災害を防ぐ一  
 つの方法だと思います。しかし、それだけで  
 なく、林業という仕事の価値や森林を守る必  
 要性を多くの人が理解することが大切である  
 と私は考えます。私が、苗木育成の企業で実  
 際に林業を体験した際には、本当のびのび

とリラツクスでできる空間を感じることもでき  
 ました。自然に囲まれて深呼吸をすると、地  
 球にはこのような空間が必要であると、あ  
 りたいと感じることができました。同時に、  
 森林や自然を守る林業という仕事は、この  
 社会にとってもなくてはならない仕事であ  
 ると感じました。この仕事があるから、そ  
 れぞれの森林は守られ、そして、私たち  
 の安全は守られているのです。土砂災害は  
 全ての人に関係する災害です。そして、  
 土砂災害は直接的に被害を防ぐだけでなく、  
 災害が起らない環境をつくることもでき  
 ます。自然を守ることが、自然を守ること  
 につながります。自然を守る仕事の大切さを  
 一人一人が忘れてはいけません。私たちの世  
 代から次の孫の世代まで、またつないでい  
 くのです。土砂災害を起こさない、土砂災  
 害に負けない未来を。